

令和8年4月30日

奥多摩町観光産業振興計画策定委員会 第1回 議事録

日時：令和8年4月30日（木） 午前10時00分～

場所：奥多摩町役場地下1階 会議室

【出席委員】

原島 俊二、青木 高幸、小笠原 広志、田治米 伸康、増田 昭太郎、
鈴木 清春、塩野 廣行、原島 幹典、野坂 美穂（WEB 参加）

【事務局】

大串 清文（観光産業課長）、小峰 淳一（課長補佐）、小林 雅樹（観光産業振興アドバイザー）、
八間川 結子（株式会社さとゆめ）

【オブザーバー】

加藤 洋平、鈴木 敏春、原島 保、渡辺 舞（沿線まると株式会社）、
越山 翔太（株式会社さとゆめ・WEB 参加）、日高 未紗子（株式会社 HIS）

〔次第1 開会・委嘱状交付〕

事務局・大串課長

ご多忙のところ、奥多摩町観光産業振興計画策定委員会にご出席いただきありがとうございます。司会を務めさせていただきます。観光産業課長の大串でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、委員の塩野様におかれましては、ただいま出先ということで、少し遅れてご参加いただく形でございます。

また、町と包括連携協定を締結しており、第6期長期計画の策定にも携わっていただいた多摩大学でございますが、総合研究学部の野坂准教授はウェブでのご参加となりますので、ご承知おきいただければと存じます。

それでは早速、次第に基づきまして、策定委員会を進めさせていただきたいと思います。

事務局・大串課長

委員皆様に奥多摩町長から委嘱状を交付させていただきます。名簿順で交付いたしますので、お名前をお呼びした方はその場でお受け取りをお願いいたします。

それではまずはじめに、原島俊二様。原島俊二様、観光産業振興計画策定委員会に委嘱いたします。令和7年4月30日、奥多摩町長。どうぞよろしくお願いいたします。

原島委員長

よろしくお願い致します。

事務局・大串課長

続きまして、青木高幸様。青木高幸様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、小笠原広志様。小笠原広志様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、田治米伸康様。田治米伸康様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、増田昭太郎様。増田昭太郎様、どうぞよろしくお願いいたします。

増田委員

よろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

続きまして、鈴木清春様。鈴木清春様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、原島幹典様。原島幹典様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、野坂美穂様、ウェブでのご参加となります。野坂美穂様、どうぞよろしくお願いいたします。

〔次第2 委員・事務局の紹介〕

事務局・大串課長

続きまして、委員・事務局の紹介ということで、まず事務局からご紹介いたします。時計回りで、委員の皆様からも自己紹介をいただければと存じます。まず、事務局から改めて。観光産業課長、大串でございます。3年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

小峰係長

観光産業課、観光商工係課長補佐の小峰と申します。よろしくお願いいたします。

農林水産係・加藤係長

観光産業課、農林水産係課長補佐の加藤と申します。よろしくお願いいたします。

森林保全活用係・鈴木課長補佐

同じく、観光産業課、森林保全活用係課長補佐の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

名簿にあります森林保全活用係の原島（保）につきましては、11 時頃には到着となります。農業代表団の対応をいただいておりますので、ご了解いただければと存じます。

続いて、国の地域活性化起業人制度を活用して派遣を受けております。観光産業振興アドバイザー、よろしくお願いいたします。

事務局・小林

観光産業振興アドバイザーとして着任いたしました、小林です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

続いて、今回の計画策定について町のコンサルタントとしてご協力いただいております。株式会社さとゆめから八間川様、よろしくお願いいたします。

さとゆめ・八間川

株式会社さとゆめの八間川と申します。よろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

続きまして、同じくさとゆめのコンサルタントの越山さんはウェブ参加になります。一言、越山さん、お願いいたします。

さとゆめ・越山

すいません、よろしくお願いします。

事務局・大串課長

続いて、HIS の日高様、お願いいたします。

HIS・日高

株式会社 HIS の日高です。よろしくお願いします。

事務局・大串課長

すいません、名簿が前後しましたが、沿線まると株式会社の渡辺さんも、よろしくお願いします。

沿線まると・渡辺

よろしくお願いします。

事務局・大串課長

それでは、委員の皆様、それぞれ名簿順で原島俊二様から順に自己紹介をお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いします。

原島委員長

奥多摩観光協会の会長の原島と申します。どうぞよろしくお願いします。

青木委員

奥多摩町小口事業資金融資制度等審議会委員長の青木です。事務所でプロパンガスの販売をしています。よろしくお願いします。

小笠原委員

青梅商工会議所の小笠原と申します。奥多摩支所の担当ということで、10 年目になります。よろしくお願いします。

田治米委員

沿線まるごと株式会社の田治米と申します。よろしくお願いいたします。

増田委員

奥多摩町農業推進協議会の副会長をしております、増田と申します。よろしくお願いいたします。

原島（幹典）委員

奥多摩町林業振興事業協議会の会長をしております、原島です。町内の活動としましては、奥多摩都民の森の林業関係団体、林業体験講座のインストラクターとしてお手伝いしたり、それから氷川にあります奥多摩ふれあい公園というところでのボランティア活動の指導などをさせていただいております。よろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

野坂先生、聞こえていますか。自己紹介をお願いいたします。野坂先生、聞こえますでしょうか。どうぞ、自己紹介をお願いいたします。

野坂委員

はい、私の方ですか。はい、よろしくお願いいたします。

原島委員長

ありがとうございました。

〔次第４ 委員会設置要項等委員の所掌事項の説明（資料－１）〕

事務局・大串課長

続きまして、次第の４番、委員会の設置要項等の説明を、観光商工係課長補佐の小峰よりさせていただきます。

小峰係長

はい、それでは早速ではございますが、資料の１をご覧ください。画面の方は大丈夫ですか。それではですね、資料１の奥多摩町観光産業振興計画策定委員会の設置要項をご覧ください。

第2条の所掌事項ということで、委員会は、長の諮問に応じて、次の各号にかかげる事項について、調査・審議を行い、長に答申するとございます。各号1、観光産業振興計画に関する事、各号2、現行の観光事業及び産業事業の見直しに関する事、各号3、その他、長が特に認める事、というところで、この委員会につきましては、この事項について調査・審議を行い、長に答申するというのが所掌事項となります。説明の方は以上となります。

〔塩野委員 遅着・委嘱状交付〕

事務局・大串課長

次第に戻りまして、遅れていらっしゃいました塩野委員様にご到着いたしましたので、町長から委嘱状の交付を合わせてお願いできればと存じます。塩野廣行様、奥多摩町観光産業振興計画策定委員会に委嘱いたします。令和7年4月30日、奥多摩町長。どうぞよろしくお願いいたします。

〔次第5 委員長及び副委員長の選任について〕

事務局・大串課長

それでは、次第に戻りまして、次第の5番、委員長及び副委員長の選任でございます。

委員長の選任につきましては、委員会設置要項第5条第2項の規定によりまして、委員長は互選とありますので、どなたか立候補がございますでしょうか。

ただいま事務局として一案の声をいただきましたので、事務局といたしましては、町の観光協会の会長でございます原島俊二様に委員長をお願いしたいと存じます。皆様の拍手をもって選任させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、原島委員長におかれましては、委員長席にご移動いただければと存じます。

はい、続きまして、副委員長の選任でございます。副委員長の選任につきましては、設置要項第5条第4項の規定によりまして、委員長が委員の中から指名するとございますので、委員長よりご指名をいただきたいと思います。原島委員長、お願いいたします。

原島委員長

それでは、過去において業界の相互協力で試合に力を入れ、全国で3番目の国民宿舎にしたという実績をお持ちの原島幹典さんをお願いしたいと思います。

事務局・大串課長

それでは、皆様の拍手をもって選任させていただきたいと思います。ありがとうございました。原島副委員長におかれましては、後ほどあちらの席へのご移動をいただければと存じます。

〔次第 6 町長諮問〕

事務局・大串課長

それでは、次第の 6 番、町長から諮問をお願いいたします。奥多摩町長より原島委員長に対しまして、観光産業計画の策定にあたり諮問をいただきたいと存じます。お願いいたします。

〔諮問書朗読〕

奥多摩町観光産業振興計画策定委員会、委員長原島俊二様。

奥多摩町観光産業振興計画の策定等に関する諮問について。

奥多摩町観光産業振興計画策定委員会設置要項第 2 条の定めに基づき、下記の通り諮問する。

- 1 つ、観光産業振興計画の策定に関すること。
- 2 つ、現行の観光事業及び産業事業の見直しに関すること。
- 3 つ、その他、特に必要と認めること。

ありがとうございました。ご着席をお願いいたします。

〔次第 7 町長あいさつ〕

奥多摩町長

皆さん、おはようございます。昨日から、観光産業課でまさにイベントを始めておりますが、とにかくあったかかったり、寒かったりということで、お客様の手入りというのがなかなか予測できない難しさを感じておりますが、連休の最後までしっかりと進めてまいりたいと思いますので、皆様方のご理解をよろしくお願いいたします。

実は昨日、私、日本武道館に行きまして、昭和 100 年の記念式典がございました。国の主催でございます。開会前に昭和の歴史を画像で、白黒から映像の絵でありましたけれども、こういう時代の変遷があつて今もあるということを感じたんですけれども、文化、歴史に農林産業、そして観光とさまざまな場面を見てですね、いろいろなことを感じました。そして今の奥多摩の観光というふうな形で、これからどうやっていくかということも、ちょっと自分の胸の中にありましたけれども、画像の中で私が一番印象に残ったのはパチンコになりまして、こういう

場面が出ていてですね、ああ、そうだな。私たちが子供の頃、親父はこんなことをやってたんだということをですね、映像から見ましたけれども。

奥多摩もロープウェイができた時はそれこそ観光バスがつながってきた時代でありました。そして、奥多摩町も観光をなりわいとする皆様が多く、観光立町、奥多摩を標榜しておりましたけれども、やはりコロナを経験してさまざまな世の中が変化した、ということが今皆様が感じていらっしゃると思います。奥多摩町も、本日諮問させていただきまして、内容もそうだけれども、しっかりとこの現実に向き合っています。ぜひとも、皆様方が知恵を結集していただきましてね、これからの観光振興でどうしていくかということをしつかりと私でも受け止めながら、これから進めてまいりたいと思います。この会、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

〔次第 8 委員長あいさつ〕

事務局・大串課長

続きまして、次第の 8 番、委員長あいさつということで、原島委員長、お願いいたします。

原島委員長

私、奥多摩町のある先生の口癖が、「会議というのは自分の本音をバンバン出さないとつまらないんだ」という口癖をお聞きしておりましたけれども、皆さんからいろんな意見を聞いてですね、こんなこと言ったら終わられるんじゃないのか、その時は遠慮しないでください。つまらないことも何でもいいですから、どうとも話し合いながら、皆さんの考えを聞かせていただきたいと思っています。どうぞ 1 年間にわたる会議になりますが、よろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

ありがとうございました。奥多摩町長におかれましては、次のご予定がございますので、ここで退席となります。委員長、よろしくお願いいたします。

原島委員長

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局・大串課長

それでは、副委員長、原島幹典様です。お席のご移動をお願いいたします。ありがとうございます。

〔次第 9 議題〕

小峰係長

ただいま、資料確認ということで、先ほどの町長からの諮問について確認をさせていただいたところでございますが、議題に入る前に、前後して申し訳ございませんが、本日の配布資料の確認をさせていただきたいと存じます。まず、策定委員会の次第、その次に委員名簿、資料 1 でこの委員会の設置要項、資料 2 で A3 横判となりますが、第 6 期長期計画に位置付けられている観光産業関連の事業・課題について、資料 3 が A4 横判の冊子でございますが、今回の策定委員会の資料と、A3 作成の名簿でございます。資料 4 が観光産業振興アドバイザー小林様作成の調査の報告、資料 5 の 1 が沿線まると株式会社様の取組、沿線 DMO の取組の資料、その次が A4 立判になりますが、資料 5 の 2 で観光の取組に対する住民満足度の調査報告書でございます。資料 6 が A4 横判のチラシで両面付いて今後の進め方とスケジュール、あと、町の昨年新しくしました観光パンフレットと、さとゆめ様、沿線まると様、JR の冊子、以上でございますが、資料の不足等ございますか、よろしいでしょうか。また説明を進める中で資料の不足がありましたら、事務局までお申し付けいただければと存じます。

それでは、次第の 9 番、議題でございます。議題の進行につきましては、設置要項の第 6 条第 1 項の規定によりまして、委員長が議長とありますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明が 1 時間くらいは予定しておりますので、その後、委員の皆様の質問等で 12 時までという形で進めたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議題の丸 1、第 6 期長期計画における観光産業課所管関連事業・課題についてお願いいたします。

【議題（１）-① 第 6 期長期計画における観光産業課所管関連事業・諸課題について（資料－2）】

小峰係長

それでは各号 1、観光産業振興計画の策定についてということで、丸 1 として第 6 期長期計画における観光産業課所管関連事業・課題について説明させていただきたいと存じます。資料 2 の A3 横判版を開いていただければと存じます。

第 6 期長期計画につきましては、4 月に策定ということで、概要版のほうは全部配布をさせていただいているところでございますが、その中から観光産業課所管に関連するところを、観光産業課の 3 つの係、農林水産係、森林保全活用係がございますけれども、その分類等で整理した資料が今ご覧いただいている資料となります。

第 6 期長期計画、まちの 10 年計画でございますけれども、長期計画における町の将来像、「自然の中で私が暮らし、つながり、挑戦できる奥多摩」でございます。今回、これまでの計画ですと、福祉分野であったり、教育分野であったり、産業分野という形で縦割りというような形の計画でございましたけれども、今回の第 6 期計画は、コンセプトを 3 つ定めまして、1 つが活性化、2 点目が効率化、最後 3 点目が持続化という形で、横断的な計画の作りとなっております。

そういった中で、観光産業課においても 1 つの係だけではなくて、内容によっては 2 つの係、場合によっては 3 つの係が関わるような形でございます。まず、表の左上にコンセプトの活性化という形でありますけれども、将来像の一として、「生まれ育つまちづくり」ということで、企業の支援であったり、観光資源の開発であったり、さらには産業再生、それぞれ関わる部分ですが、効率化の中で「町の魅力をシェアする」という形で施策の方向性が示されているところでございます。

続いて中段の方に移りますが、将来像の二ということで、「つくる・つながる・広がるまちづくり」ということで、広域連携の推進であったり、もしくは幅広い世代が参加できる事業の充実・開発であったり、続いて将来像の三、「みちる・めぐるまちづくり」ということで、町の活性化、観光資源の活用、暮らしの満足度、このような形で定められているところでございます。

最後、コンセプト持続化の中ではサステナブルなまちづくりということで、「資源を生かす・対策するまちづくり」という形で、三つの係が関わるような形で、観光客への対策であったり、獣害対策であったり、シカ・イノシシ等の再生事業・地域資源の活用という形でその下に観光産業課における当面の課題ということで、昨年度と今年度以降の直近の解決しなければならない課題という形で記載をしておりますので、昨年度実施の創立 70 周年記念等も記載が

残っておりますが、こういった課題があるという形で後ほどお読み取りいただければと存じます。

各係で所管の計画・個別計画があるところでございますが、今回第6期計画の中でより具体的に観光産業振興計画を策定するという定めがありますので、今回、令和7年度1年間をかけてこの策定委員会の中でご審議いただきまして、最終的に本日の町長からの諮問に対して、皆様のご意見を集約させていただいて、来年、町長に答申という形の予定でございます。

こういった中で、町の諸課題を解決するには行政だけではやはり限界がありますので、昨年度観光産業課としましては官民連携という形の中で、昨年4月には、町のホームページの多言語化ということで地域活性化プラットフォームとの連携協定であったり、あとは観光マナーの周知啓発ということでリープノートレースとの連携協定で、今回計画策定にも関わる部分になりますが、インバウンドを含む観光振興ということで、さとゆめ、沿線まると、HISとの町との4社協定ということで、包括連携協定を昨年度締結をしたところでございます。

その中で、計画策定のところも包括連携協定の中で謳っておりまして、今回この計画策定にあたってはコンサルタント担当ということでさとゆめ様に、町の観光産業課職員とともに計画策定を進めていくという流れでございます。

以上、雑駁でございますが資料に基づく説明とさせていただきますが、追加で配布しました先ほどの町長諮問の写しをご覧くださいければと存じます。

町長から大まかな説明でございましたけれども、私からはその諮問の内容及びディテールのところを読み合わせさせていただきます。

町の第6期長期計画に基づき観光分野を含めた産業振興計画の策定が必要であり、その策定にあたっては第6期長期計画に定めるコンセプト、先ほど説明しました活性化、持続化、効率化を踏まえ、観光産業課所管に係る施策の方向性や具体的な取り組みについて、第6期長期計画と同様に横断的な計画となる審議をお願いするものでございます。

2点目でございますけれども、具体的には、町は昭和30年頃の観光立町標榜以来、各種観光施設の設置及び各種事業の実施のほか、木質資源の活用も含め各種産業事業を実施しておりますが、時代のニーズや現状に生じる諸課題により、当初の目的を達成できていない施設及び

事業もあることから、スクラップ＆ビルドの観点で抜本的な見直しに向けた審議をお願いするものでございます。

こちら具体的には、観光施設という形ですと、富士山麓に開設する形で蕎麦を提供する施設がございましたけれども、そちらも今休業をしている状況でありましたり、あとは小河内・峰谷に木炭窯を整備して、木炭という形で販売を行っておりました。その前から展開をしているところですが、今その木炭窯は必ずしもではなくてワサビであったり山芋というような形で活用させていただいているところですが、なかなか動物の食害にあたりして、とても流通までもっていけるような状況ができていない状況もございます。なかなか当時の目的を達成できていない施設・事業もあり、今後の委員会の中でも事務局からも個別具体的に説明させていただきますが、そういったところについても委員会に向けて委員の皆様のご意見をいただきたいというところでございます。

最後3点目でございますが、秩父多摩甲斐国立公園の立地地帯として、国はインバウンド事業を踏まえ、観光立国を推進する中、国立公園の利活用にかかる各種補助制度を整備していることから、国及び東京都等の各種補助制度を活用した新たな取り組みに向けた審議をお願いするものでございます。

こちらの国は国立公園利活用という形で、国立公園内にある廃墟となった宿泊施設等を次に向けた利活用が図れているのであれば、その解体費用も補助対象にするという制度もございますけれども、事務局としては費用的な課題ともありますが、旧仮設施設が奥多摩湖のほとりにあります。その旧建屋は現在、町という形で企画財政課で管理をしているところでございますが、そういった国の制度を活用して今後解体、その後の利活用が図れないか、事務局として考え方を持っているところでございますので、そういったところについてもこの委員会の中で皆様からご意見もいただければというふうに考えているところでございます。

以上、次第の各号1の丸1の説明を終わらせていただきます。この段階で皆様から何かご質問・ご意見とありましたらいただきたいと存じます。いかがでしょうか。

原島委員長

こういった現状が実態ですよね。なかなか具体的な案件があるから、どういう意見もあるのでしょうか。まだ大枠というところになりますし、次の説明の中でより具体的なところにもなりますので、一応よろしければ次の説明を進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。皆様にご説明をお願いいたします。

事務局・大串課長

では、こちらの説明については株式会社さとゆめの八間川様からお願いしたいと存じます。

【議題（１）-② 観光産業振興計画策定の方向性を取り巻く背景について（資料－３）】

さとゆめ・八間川

改めまして、さとゆめの八間川と申します。１年間よろしくお願いいたします。今回１回目の計画策定委員会ということで、お手元資料３の見開きの最初の部分からご説明をさせていただきます。委員会の位置付けと計画自体の位置付けという部分をまずご説明させていただければと考えております。またそちらを踏まえて、どのような策定方針で進めていくのか、また方向性の背景となる奥多摩町の今の状況という部分をご説明させていただきます。

続きまして、そういった現状を踏まえまして、今後の計画策定・観光振興に向けた検討課題について、ディスカッション・協議のほど可能であればと考えております。

説明がここから長くなるんですけれども、説明後、全体に関する資料３に関する全体の質疑に加えまして、委員の皆様にご意見をいただきたい事項としましては、奥多摩町の観光、また観光産業振興計画策定への期待、こういったことを書き込んでほしいですとか、こういった方向性で進めてほしいですとか、委員の皆様からのご意見をいただければと思っております。またそこからより具体的な部分として、観光立町を目指す中で大事にしたい考え方ですとか、検討すべきテーマやキーワードについても委員の皆様からございましたらご意見いただければと思っております。

先ほどのご説明の資料２の中にも施策の方向性ですとかキーワードが出ておりましたが、盛り込まれていないものでもっと追加したいものなどございましたら、ぜひご意見いただければと考えております。最後により具体の部分の協議事項となりますが、奥多摩町に来てほしい観光客の方のイメージであったり、皆様の中で知ってほしい地域課題、内なる観光産業を通じて解決したい課題、検討課題などについてもご意見をいただければと考えております。

ではこちら資料3についていただいた上でただいま申し上げましたような点についてご意見をいただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。では本資料の次のページをご覧ください。

奥多摩町観光産業振興計画と策定委員会の位置づけとして整理をしております。こちらはこれまでにもただいまご案内のあったとおり第6期長期計画を踏まえた、長期計画の中で左側の図の左上から引用しているものとなります。長期計画の中での、長期計画ありきで、その下にある実施計画・個別計画の一つになるものと考えております。

一方で観光立町を掲げてらっしゃることからも、実施計画・個別計画の中の一つではありますが、中でも奥多摩町の将来像実現に向けて大きな重要な計画の一つというふうに認識をしております。長期計画の中で持続化・活性化・効率化をコンセプトとしている中で、もちろんこの3点全てコンセプトとして重要視した上で検討を進めますが、特に観光だけではなく観光産業、町内の産業全ての活性化ということを踏まえて、重要な計画として意識付けした上で計画策定を進めたいと考えております。

また策定委員会については、図の右側をご覧ください。こちらのまず策定委員会は既存の計画や町民・町内の事業者の声を踏まえた、実行に向けての方向性ですとか目標・施策を検討する場というふうに整理をしております。長期計画の中でも住民との協働が謳われており、こちらの今年度策定をします観光産業振興計画についても住民との協働を重要と考え、住民参画のワークショップなどを1年間の中で行っていく予定となっております。そういったワークショップの結果なども私どもがこちらの委員会の場で共有をさせていただきますので、そちらを踏まえて全体の方向性ですとか施策を決定付けていく場とできればと考えております。

次のページをお願いいたします。では続きまして、ただいま申し上げました観光産業振興計画の位置づけ並びに委員の皆様の役割を踏まえまして、どのような策定方針で進めていくかという部分をご説明させていただきます。まず長期計画の中にもある町の将来像の実現というのが一番大きな目的・目標と考えております。そちらの町の将来像の実現に向けて、根拠に基づいた現状把握、現在の足元の部分を把握する、さらにそこから実現したい未来に向けての計画、並びに計画を形にしていくための施策をアクションプランとして実行性を意識して整備・展開を検討したいと考えております。

一番右下の図の右下となりますが、今左下の現在にある中で、町の将来像・ビジョンが右上にございます。こちらを達成するための計画というのが今回の計画の位置づけとなります。加

えて上流・中流の高い計画のみではなく、実際にここにどういったことをしていくのか、誰がどのようにしていくのかという施策も含めてアクションプランとして策定を本年の中に行いたいと考えております。

そちらに向けてまず1点目、策定方針の1点目です。まずは現状を正しく、エビデンスというかデータ・事実に基づく把握、その上での計画策定が重要だと考えております。この後の議題にもございますが、ヒアリングですとかアンケートですとか、そういったデータを踏まえた計画策定を進めたいと考えております。

加えて2点目として、持続可能な観光地認定ガイドラインというものが国で定められておりまして、そちらの認証も視野に入れて策定をしたいと考えております。こういった認証を得ることでもちろん町のブランディングですとか認知の向上にもつながりますし、オーバーツーリズムですとか観光地の問題も今ございます。そういったことに対して規定のガイドラインを踏まえて計画することで、自然や文化財保護の課題の対応も可能になっていくものと考えておりますので、参考としてガイドラインの認証も視野に入れた上で検討を進めたいと考えております。

最後に3点目です。実行性を高めるためのアクションプランと申し上げましたが、そのためには体制ですとか進捗管理、また適切な数字での進捗が測ることが可能な目標設定が必要だと考えておりますので、そちらについても正確にきちんと設定をしたいと考えております。以上の3点の策定方針のもと、今年度の検討を進めたいと考えております。

では続きまして、策定の方向性と取り巻く背景のページをご覧ください。こちら町の将来像の実現に向けて長期計画の中で定められているコンセプトが3つ、活性化、持続化、効率化となっております。こちらのページに記載しておりますものは今まで上がっているようなキーワードですとかテーマを列举しております。

例えば活性化に向けては、奥多摩町の一番の資源でもある自然の資源をどのように活用するかですとか、さらにそういったものを活かしてどのように新たなスポット、ないしは特産品などを開発していくのかというようなことがございましたり、続きまして持続化の観点では、ゴミ対策・観光駐車場ですとか、町内の施設の老朽化の対策ですとか、獣害対策も持続化という観点で検討できるかと考えております。さらに最後に効率化という観点では、渋滞混雑の緩和ですとか、それに向けてのキャッシュレスですとかデジタル化ですとかデータの活用、そういったものもテーマの1つになるかと考えております。

こちらの記載しているキーワードはテーマの参考列挙ですので、ぜひこちらについて検討すべきキーワード・テーマなどがございましたら後ほどコメントをいただければと考えております。こういったキーワード・検討すべきテーマについて、観光産業という対外的な、観光なので外からお越しいただくという対外的な活動ではある一方で、観光を通じた町づくりということが重要と考えておりますので、その2つの観点からしっかりと検討・策定を進めたいと考えております。

では次のページをお願いいたします。ここまで申し訳ございません、ずっとご説明が多く情報が多くなってしまいましたが、このような調査整理を踏まえて今後検討すべき課題として大きく5点のテーマがあると考えております。

1点目が滞在型観光への転換、それを通じたお客様からの消費単価の向上ということを目指す必要があると考えております。

続きまして2点目、通年の誘客、冬のコンテンツを確立していくことで、閑散期である冬を活性化していく、繁閑格差と閑散期を効率化・平準化していくというようなことが必要だと考えております。

3点目です。インバウンドについては必要なテーマと考えておる一方で、渋滞ですとかゴミ問題ですとかマナーですとかそういった声も多く上がっておりますので、どのような方々にお越しいただくのか、奥多摩町として提供するのかという部分も整理・検討ができればというふうに考えております。

4点目です。住民共生とオーバーツーリズム対策として、やはりゴミですとか駐車場の問題がある中で、奥多摩町の町民の方・住民の方あつての町かつ観光産業ですので、そういったものの共生をどのように進めていくのかというのは検討すべきテーマです。

5点目として地場産業との連携として、農林水産業はもちろんそういったものと産業・観光業を掛け合わせて、そのような新たな独自の収益源を確立していくのかという部分を計画策定の中で検討を進められたらと考えております。

ちょっと情報が多くなりましたが、主な検討課題として以上のように現状では考えているところでは。こちらについてもっとこういった観点も検討が必要ではないかですとかキーワード・テーマがあれば、コメントをいただきたいと思いますと考えております。

また加えて少し具体的なテーマにはなるんですけれども、特にインバウンドについてこのようなターゲットが良いのではないかと、またインバウンド誘客についてはここを検討すべきだ、ここは課題であるというような具体的なご指摘・ご意見ございましたら、ぜひ本日お声をお伺いできればと考えております。

では続きまして、最後となりますが、またこの後議論の協議の場に戻って来られたらと考えておりますが、最後に観光産業として町内だけではなく外からお客様をお呼びする、外からのお金を生み出していくというものですので、外の視点いわゆる観光産業のトレンドですとか市場についても把握をしておく必要があること、かつこれをどのように機会として奥多摩町が生かしていくかという部分が重要となりますので、こちらについて一緒に計画策定を進めております HIS の日高様よりご説明をさせていただきます。お願いします。

〔（資料－３参考）日本の観光旅行産業概要・アドベンチャーツーリズムのトレンドについて（HIS・日高説明）〕

HIS・日高

ありがとうございます。ではすみません、後ろから失礼させていただければと思います。私からは今後の検討に向けた参考として、近年の観光旅行産業の動向をご説明させていただきます。

まずは左側の部分に関しましては、日本人の国内旅行の消費額や国内の延べ宿泊数に関してのデータとなっております。消費額に関しましては物価高等の影響も少なくないかと思いますが、コロナ後から前年の数値を毎年上回る状況となっております。延べ宿泊数に関しましては2025年は少し前年を割りますが、旅行宿泊数全体としては上がっているような数値も出ております。外国人の方も上昇しているような現状となっております。

国としても観光立国推進基本計画においては、国内に関しても交流を促進させていくということが記載されておりますので、観光産業拡大に向けては順風な状況だと考えております。

右側に関しましては、国内旅行で何をしているかという行動のアンケートの調査になっておりますが、自然の風景を見るというのが上位にございますし、また下の図に関しましては地方部への憧れ・愛着に関する若者の意識調査になっております。奥多摩は都内でありかつ都心からアクセスがよい環境で、自然や国立公園を感じられるような多彩な資源がたくさんあるということからも、強みとなり可能性としてピックアップさせていただいているデータとなっております。

またインバウンドに関しまして、外国人旅行消費額とともに全年を更新し続けておりまして、国としても2030年までに6000万人、消費額としては15兆円を目指すとされておりまして、その中で国のページのほうにあるアドベンチャートラベルの検討がなされております。少し情報を記載させていただきましたが、ご説明させていただきます。

アドベンチャートラベルの定義としているものもありますが、自然・文化体験のうち二つ以上で構成される旅行というふうにされております。国際アドベンチャートラベルの規定を制定しているものになっております。市場動向と体験の質の変化というふうにあります、アドベンチャートラベルというリスクのあるスリルのある体験をイメージされることも多いかと思うんですけども、近年は身体的活動というところの中心から、文化・自然・地域交流を充実する志向へ変わってきていると言われております。

その志向が4種類あるというふうに記載させていただいているのですが、スリルのあるようなアドベンチャー重視派というものももちろん14パーセントはありまして、自然・文化・体験派、バランス型旅行者というふうになっております。中でも全体的なトレンドとして文化・体験派というのがグラフでも多いのか分かるかと思います。

次のページのところに平均単価、1人あたりの消費だったり滞在日数が記載させていただいているのですが、平均単価が高く滞在日数も長いということと、リピーターも高いというところから、サステナブルツーリズムとの親和性も高いと感じております。小規模で地域に密着した体験型アクティビティ、自然・文化とのつながりを重視するスタイルが主流となっております。

また下の方、今年はアジアのアドベンチャートラベルの市場がとても注目されております。特に文化・体験派が高い割合を占めておりまして、日本においてはこのグラフでも分かるように、その中でも文化体験派が多く占めていることが分かるかと思います。

次のページに記載させていただいているのが年齢層のデータになるのですが、アジアではアドベンチャートラベルを体験する方は41歳以上が半数を示しております。これに関しましてはハードなスリルあるものよりも文化体験派の傾向が強いということでもよく見られた結果だと思われまふ。下のアンケート調査に関しましては日本に求めるものとしてはハイキング・ウォーキング、地元の人との交流などが全体としてもそういったものが高く求められていることが分かるかと思ひます。

最後のページですね。アドベンチャートラベルや地域部の方で今注目されているんですけれども、JNTOとしてまとめている理由というものをまとめて記載させていただいております。地域資源を活かして、アドベンチャーと言ひますかアウトドアのみならず、ストーリー性のある体験を提供していくということ、それができると継続での誘客ができ、少人数でサステナビリティ、自然へのローインパクトを守りつつ発展につなげられるというふうにかえられているものになっております。

奥多摩町様もリープノートレースジャパンとともにサステナブルな観光づくりを今推進しているということもありますので、アドベンチャートラベルを今後のトレンドとして本日は紹介させていただきました。私からは以上になります。

さとゆめ・八間川

ありがとうございます。そうしましたら私どもからのご説明事項が多くなってしまったんですけれども、改めまして今回の奥多摩町観光産業振興計画の策定並びに策定委員会の位置付けですとか、各検討すべきテーマについて委員の先生方からコメント・質疑とあればお願いできますと幸いです。まず全体に関して質疑ですとかございますでしょうか。

原島委員長

皆さん、全体についての説明をいただきました。何か今まで聞きたいことあるから、何もないことですからどうぞ。

事務局・大串課長

よく調べられているなというような感想で、これで全て解決できるんじゃないかというような。ありがとうございます。事務局から補足をさせていただきます。私も役目の中で、福祉の関係の計画策定、産業の計画策定する時もコンサルを入れてという形もありましたけれども、なかなかこれまでの経験ですとコンサルとのやり取りが難しいところもあって、実際に使える計画策定がこれまでできているかなというところもあるんですが、今回コンサルの進行計画策

定に向けて4社協定を昨年締結をさせていただいて、今日1回目を迎えるにあたって、昨年12月から定期的に4社で打ち合わせと情報交換の計画もしながら、今日資料を説明させていただいているところでございます。

今日初回初日というところもあるのと情報量も大分ありましたけれども、この委員会は各会議帯・協議会の代表の方にご参加いただいているところでありますが、もちろん随時の確認・説明もさせていただきますけれども、ここは最上位のこの策定委員会で、さらにより具体的な詳細なところの検討は、観光商工係もしくは農林水産係、森林保全活用係で所管のそれぞれ協議会もしくは審議会がありますので、またその中でより具体的に年度をかけてご審議いただいて、その内容をまた次の第2回の策定委員会、第3回の策定委員会に反映していただくような形でスケジュールを考えておりますので、今日のところは後ほど説明がまだございますので続けさせていただいて、最後のところで何か自由に今の街の状況について皆様からご意見・ご発言いただければなと思うところでございます。

【議題（1）-③ 観光産業振興アドバイザーの事前調査について（資料－4）】

事務局・大串課長

それでは、観光産業振興アドバイザーの事前調査についてということで、資料4に基づいて報告させていただきます。奥多摩町では国の総務省の地域活性化起業人制度を活用しまして、昨年度11月から小林様に着任をいただいております。こちらの地域おこし協力隊は奥多摩町を活用しておりますけれども、そちらは移住を前提にして町内の浮橋御庁等の内部的なところで活用しているところでございますけれども、一方でこの地域活性化起業人のところは移住までは必須条件ではないんですけれども、小林様は担心不足で今出身なんですけれども、奥多摩のところに通うという形で、日々毎日フルタイムで奥多摩まで通勤をいただいて、週何回とかではなくても週5日、観光産業課の職員とともに日々勤務いただいているところでございます。

11月1日以来、関係する観光協会の会議にもオブザーバーとして参加する中で、やはり町は課題がありますので、年明け以降、町内の観光協会の事業所さんをヒアリング形で回っていただいております。その内容について、この後小林様から報告をいただきたいと存じます。では小林さん、お願いいたします。

事務局・小林

改めまして。観光産業振興アドバイザーとして昨年11月に着任した小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私も奥多摩に着任して約5ヶ月経ちまして、その間、観光産業振興計画を策定する前に、まずは私の方で町内ヒアリングといたしまして、観光協会関連している約70事業者様なんですけれども、1月から2月にかけてヒアリングをさせていただきました。今回この計画策定にあたっては、町だけの考えとかではなく、当然町民の方々や町を支えている事業者様からの意見が本当に大事になってくるかと思いますので、ヒアリングに関してはあまり固くならずにごくばらんに、ヒアリングさせていただいた調査といったところを今回この資料にまとめさせていただきました。

ではお手元の資料をめくっていただきまして、今回調査するにあたっては、第6期長期計画のコンセプトというのがもちろん観光分野に関しましても紐付けなければいけないと考えております。活性化・効率化・持続化なんですけれども、ここをヒアリングした上で最初にここに書いてあります「2極化の融合」って書いてあるんですけれども、これは私が感じた率直な意見にはなるんですけれども、この奥多摩町の事業者様なんですけれども、ホテルも昔から長く事業されている方もいらっしゃいますし、ここ数年で新たに奥多摩の方に移住をしてきて新規参入といった形で起業されている事業者様もいらっしゃいます。

2つなんですけれども、結構考え方が両極端といいますか、例えば現状維持でいいという事業者様もいらっしゃいますし、やはり今奥多摩は変わっていかなければいけないよね、という考えを持っている事業者様もいます。今回観光産業振興計画を策定するにあたっては、どちらの意見が正しいとか間違えているとかそういうことはもちろんないですし、どちらの意見に関してももちろん尊重して、2極化の融合といった形で誰もが納得できるような観光産業振興計画を今後策定すべきかなというふうに、このヒアリングをした上で感じた部分となっております。

ヒアリングをした内容なんですけれども、先ほど申し上げました今の現段階の課題・抱えている課題ですとか、新たな観光コンテンツの開発で、サステナブルツーリズムに関して何か取り組んでいることがあるかどうか、あと再三言われているインバウンド、今外国籍のお客様に関してどう考えているか、あと今この事業者様は現金のみの取り扱いなのか、もしかするとキャッシュレス対応をしているのか、最後となっております冬の閑散期についてヒアリングをさせていただきました。

では一つずつ説明をさせていただきます。奥多摩の課題でやはり多かった意見といたしましては、人口減少、空き店舗問題といったところが多く意見が上がっておりました。人口減少に伴う担い手不足といったところで、高齢化に伴って事業者様の担い手不足といったところが結構多く事業者様からも言われたんですけれども、私もここは結構突っ込んで、高齢の方であればこの後どうなさるのかって聞いても、いやもう私の代で止めるよというところも結構多かったです。若い世代が持って増えないとやっぱりそういった町の元気にもつながらないんじゃないかなといった。

もう一つ、空き店舗の増加といったところなんですけれども、結構私も最初の頃からこの地区、特に氷川地区を中心に最初回らせていただいたんですけれども、やっぱりいわゆるシャッター街といった形で、結構閉まっている印象を受けました。私も最初は町外からの目線といったところを大事に見させてもらったんですけれども、そうなってくると、結構町の賑わいが失われているんじゃないかというふうな印象も最初は受けました。やはりこの働く場所がない、それで町外へ出てしまう、人口減少といったかたちで、今その負の連鎖といいますか、そういったものが今の現状ではないのかなというふうに思っております。

方向性としては活性化の部分にはつながってくるかなと思うんですけれども、今町でも行っております、やはり新しい企業の新規参入といったところが本当に今後は大事になってくるんじゃないかなというふうに思っております。結構若い方々で新規参入されている起業者様・方々ともよく話はするんですけれども、やっぱり奥多摩に関しては何も知らない状態に入っている方というのもしゃいます、この方とも古くから従事されている方とも連携して取り組むことができるといったことも奥多摩にはすごくいいメリットかなと思いますので、ぜひ町としても、やはり起業参入支援といったところは積極的に推奨していくべきかなというふうに考えております。

その次の新たな観光コンテンツの開発の部分なんですけれども、今後が多分大きく不足している部分かなというふうに感じました。奥多摩自体はもともと豊かな自然ですとか、私も初めて奥多摩に来たときは本当にこの東京とは思えないような自然というのは私自身も知らなかったという部分もありますので、そういった首都圏の方々は結構知らない方が多いんじゃないかなというふうに思いましたので、ポテンシャルはありますが、なかなかPRができていない、発信力不足といったところが結構課題になってきているんじゃないかなと思っております。

再三言われているように通年で誘客の課題、やはり夏はどうしても来る方は多いんですが、冬に関してどうされているんですかというようなヒアリングをすると、昔からこういうものだから、諦めているといったらあれですけども、特に何か新しいことをされている事業者様も少なく、冬に関しましてはメンテナンスをしている期間だというふうに割り切っている事業者様もいらっしゃいました。夏に関してはオーバーツーリズムといったところもありますので、先ほど八間川さまからの話もありましたように、通年でお越しいただく取り組みといったのが必要になるかなというふうに感じました。

この方向性としては効率化の部分につながってくると思うんですけども、やはりワサビですとか水ワサビ、クラフトビールといった奥多摩ならではの魅力といったものはやはりあるので、そこに特化してもいいんじゃないかという意見も結構事業者様の方から多く上がりました。確かにPR不足の部分にもちょっとつながってくると思うんですけども、何かに思い切って取り組むといったところも今後私の方でも観光計画としては考えていくことかなと考えております。

パッケージツアーの造成に関しては、私はもともと11月に着任しているんですけど、それまでは先ほどの日高さんと一緒に株式会社HISに在籍をしておりましたので、今まで培ってきた旅行業としての経験をもとに、連携協定を結んでおりますので、パッケージツアーの造成といったところも今後積極的に力を入れていきたいかなというふうに思っております。

次のサステナブルツーリズムのところになりますが、ここはですね、今後この奥多摩の自然であるとか、伝統芸能もそうなんですけれども、未来に向けてしっかり残していかなければいけない。そこがサステナブルかなというふうには思うんですけども、結構多くの方に関しましてはサステナブルって何、と言ったところから結構始まっている事業者さんも結構多かったです。それはもちろん特に発信ですとかそういったところもされてこなかった部分もありますのでいたし方ないかなと思っているんですけども、ただ今後町としてしっかり方向性を決めてもらえれば、もちろん賛同して一緒になってやっていきたいという事業者さまがほとんどでしたので、しっかり観光計画の中でもサステナビリティとして項目として入れていくべきかなというふうに思いました。

もちろん既に取り組んでいる事業者さまもいらっしゃいましたし、例えば委員長されている割り橋の活用といったところも私はすごい参考になった話も聞きましたので、今後こういった取り組み自体をもっと町としてもしっかり伸ばしていかなければいけないかなというふうに感じております。

また資料の次ページ、サステナビリティの実施例ですが、今後の方向性に関しましては、先ほどもありました LNT（Leave No Trace）の観点、一部の方々だけではなくて、事業者さまですとか町民を巻き込んだきれいな街づくりといったところも今後推奨していかなければいけないですし、先ほどのエビデンス、八間川さまもおっしゃっていたように、しっかり外部から認められるような認証といったところも今後方向性としては目指していく方がいいかなというふうには考えております。

今後のインバウンド受入れに関してなんですけれども、ここは基本的には皆様、外国籍だろうが日本の国籍だろうが受入れる分には問題ないというふうなご意見がほとんどでした。一部、お断りという方もいらっしゃったんですけれども、ほとんどの方は受入れることには問題ないということではあったんですけれども、ただやはり国柄といいますか、日本の方々とのマナーの部分、文化が違うという面もありましたので、そこを懸念されている部分というところもありました。

言語面は今であればスマートフォンを使えば高齢の方も含めてそこまで不便ということもないので、どの事業者さまも困ったときはスマートフォンを使っています、というところが多かったので、言語に関しては特には問題はないかなと思っています。今後は来る外国籍の方々に関しての例えば町の看板であったり、今私も 11 月から着任して町の看板等も確認させていただくところ、やっぱり日本語表記しかなかったりですとか、結構老朽化している看板も見受けられましたので、今後はインバウンド誘致というふうに町も掲げているのであれば対応した部分も今後は看板等も改修していかなければいけない部分かなというふうに感じております。

キャッシュレスについては、ここはもう事業者様の判断といったところにはなるかなとは思いますが、ここは結構半々ぐらいでした。もう現金しか取り扱っていない、今後も現金しか入れませんというところもあれば、対応した方がよさそうだよねという事業者さまは結構多かったですので、ただやり方や端末とかを知らない事業者さまもいらっしゃったので、今後は本当に町としてもやはり効率化というところにつながってくるのかなというふうにも思いますので、ここを改めて事業者さまとも話はしていきたいかなというふうに思っております。

最後、冬の閑散期に関しましては、ここも毎年多分ずっと課題に上がっているかなというふうに思っております。特に事業者さまも先ほど申し上げたとおり、結構諦めている事業者さまも結構多かったのですが、今後私も SNS との取り組みといったところを始めておりますので、

町としてのPRのあり方、やはり冬ならではの奥多摩の魅力というのものもあるんですけども、そこが発信できていない部分というのも、冬のエコツアーであったりバードウォッチングであったり、そういった形も含めて夏とか秋にはない冬の良さといった魅力を、今後私自身もここは強化をしていきたいかなというふうに考えております。

課題に関しましては以上となりまして、それ以降に関しましては第5期で掲げていた振り返りの部分となりますので、ここはちょっと目を通していただいて、5期ではどのような目標を掲げていてどういった取り組みをしたのか、またそれに対して実施ができたのかできていなかったのかといったところをまとめさせていただきました。

今後の重点に関しましては、最後のページですね、活性化・効率化・持続化に基づいて、観光産業振興計画の観光業務に紐付けて観光計画策定といった感じで進めていければというふうに考えております。私からは以上となります。

【議題（１）-④ 沿線まると株式会社との取り組みについて（資料－５①②）】

事務局・大串課長

ありがとうございました。続いて４番、沿線まると株式会社の取組についてということで、資料５の１と５の２を活用して、渡辺様よりご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

沿線まると・渡辺

よろしくお願いします。こちらのお手元の資料５の１を中心にご紹介させていただきます。この５の２の中にアンケートの調査について少し触れてしまいますので、５の１の資料を中心にご説明させていただきまして、最後に私、渡辺が解説させていただきます。

まず、沿線まると株式会社はどういった会社なのかというご紹介をした上で、今どのような取り組みをしているかをご紹介させていただきます。こちらはさとゆめという会社ですね、八間川さんもいらっしゃる会社と、またJR東日本が５年前に設立した会社となっております。今、本社はJRの鳩ノ巣駅に駅舎を活用して、駅舎を拠点にしている形となっております。

事業内容は、鳩ノ巣駅のすぐそばに「SATOTROUVE」という宿泊施設を昨年開業しておりますけれども、コミュニティの宿泊事業、また地域の観光事業、モビリティサービスというところを展開しております、そちらも積極的にやろうというところや、コンサル事業なども行っている会社となっております。

今やっておりますのは奥多摩線沿線を舞台にした「沿線まるごとホテルプロジェクト」ということを行っております。奥多摩線の沿線を舞台にしまして、特に奥多摩駅から白丸駅の13駅区間を舞台にした、沿線を1つのホテルに見立てたプロジェクトを行っております。

何をやっているかと申し上げますと、無人駅をホテルのフロントに、空き家・空き屋をホテルの客室に、地域の住民をホテルのスタッフに見立てまして、地域全体が宿泊するプロジェクト、地域住民・地域の事業者を巻き込んだプロジェクトとなっております。

右下の図に概略図がありますけれども、鳩ノ巣駅に駅舎を活用して SATOTROUVE という宿泊施設をやっておりますが、鳩ノ巣駅に来ていただいて地域ホテルのチェックインをしていただいて、集落との道を歩いていただく、こちらがホテルの廊下、ホテルの宿は古民家を活用した、地域の住民の方に清掃ですとか料理をやっていただく、こういった形で棚倉集落を中心に活動しておりますが、奥多摩線の13駅の中で一つ一つ広げようという取り組みをしております。

1万人の方に1回だけ来ていただくというようなオーバーツーリズム的な発想ではなくて、限られた人が何回も来ていただけるような集落プロジェクトを目指しております。ただ宿泊だけをやっているだけではなくて、その下の2枚目のスライドでございますが、さまざまな実証などをさせていただきながら事業の精度を上げてやっております。

個別の具体には紹介しませんが、そもそも沿線まるごとホテルのコンセプトを実証するような実証を行ったりとか、先ほどからも挙げていただいた課題のモビリティのところですね、二次交通とかそういったところを今自転車を貸し出しをしておりますが、そういったモビリティの実証、あとは駅舎を改造した地域の課題が集まったりとかイノベーションを創出する場を作るラボ、また電車沿線を活用した実証、そういったものをさまざまなことを地域の課題・資源を取り上げてコンテンツの化熟をさせていただいております。こういったような取り組みをさせていただきまして、下にあるようなジャパンツーリズムアワードとかそういったものの賞を受賞しております。

では続いていただきまして、じゃあ実際どのような組み方でやっているかというところですが、山と集落の間にある唐沢集落の古民家を開業しておりまして、今民泊事業を行っていると、新たな開発をゼロからするのではなくて地域にすでに良い資源があるというようなところで、着眼点を置いた形で再編集をして新たな体験価値をお客様にお提供するという事を申し上げております。

こういった古民家事業だけではなくて、下の4枚目のところですね、沿線DMOという形で地域づくり方針というところも沿線まるごとの役割としてやらせていただいております。沿線まるごとだけではなくて、奥多摩町さんですとか観光協会さん、JR東日本が、振興財団に入ってくださいまして、さまざまな協業を行っております。

沿線DMOと真ん中に書いてあるところがですね、統一の会で意思決定をして、あと観光庁のさまざまな補助金のメニューなどがございますのでそういったところも活用しながら、奥多摩そして沿線の観光振興というところを担っていきたいというふうに考えております。

沿線DMOと申し上げておりますが、この2年前の2022年に設立をしております。こちらの複数の地域をまたいだ活動というところをDMOではというのが多いですが、まず奥多摩町で私たちが拠点としており、拠点の奥多摩町で地域DMOを設立して、そういった沿線ですとか多摩地域にわたるような広域な活動にも奥多摩町という形でも参画いただいております。

まだまだ取り組みの真っ最中でございまして、今、候補DMOというまだ予定ありきのDMOという形ではあるんですけども、ゆくゆくはマネジメントエリアの拡大というところで奥多摩線の奥多摩市さんと青梅市さんからそういったところでまだ地域連携DMO、より広域な自治体を引き込んだDMOとしてやっていって、また奥多摩線で有効とされたモデルを多地域パッケージ展開という形で、沿線DMOをいろんな地域で作っていけるような形で進めていきたい、東京奥多摩発信で日本全国で広げていけるような地域に導いていければというふうに考えております。

具体的にどのようなことを取り組んでいくか・取り組んでいるかというところをご紹介します。ちょっと細かいスライドなのでわかりにくいかもしれませんが、この1番左がカテゴリーになっております。地域内連携、プロモーション、コンテンツ造成、人材育成、インフラ整備、となっております。

右上にハンレを入れておりますけれども、黄色でハイライトされているものはすでに実施済みのものになっております。例えば協議会の設立ですとかインバウンド向けの観光振興サービスといったものを今すでに行っているという形です。実施中のところが少し薄いオレンジのところですが、DMO としてはいろんなデータを活用してその KPI などを把握をして効果測定を行っていくというところを行っておりますが、そういったものを有効化の確立・仕組みの確立を今行っているところでございます。また二次交通の手段というところもすでに稼働中ではあるものの、まだまだ体制としてこれから整備をしているというところで進めています。

未着手のところ、課題としてこれまでの話にもありましたようなところを、これからも着手しておきたいというふうに考えております。

また次のページにいただきまして、2022 年に設立されてからさまざまな活動をさせていただいております。インバウンド向けの PR ですとかモニターツアーの実施、またモビリティの展開、右にある上から 2 番目のところが tokutoku（特特）ですね、3 人まで乗れるようなモビリティを電車に付いていただいて、そこからの移動手段として電源を提供するとかといったことをやっていたりとか、情報発信ですね、お手元に緑色のパンフレットが配布させていただきましたけれども、1 つの地域の事業者さんにフォーカスを当てたりとか、あとは弊社の宿泊事業のご紹介といった情報発信をさせていただいたり、あとは JR の駅の駅舎内で沿線まるごとのご紹介したいということをやっております。

次のページのところに、沿線企業のアンケート調査の方も実施をさせていただきました。詳細は資料 5 の 2 のところに、約 1800 世帯の奥多摩町の中で 337 世帯ですね、約 18% くらいの世帯の方から回答いただいたという調査になります。

その中で住民満足度調査、そして観光取組満足度調査、この 2 つを取り上げておりますけれども、住民満足度調査に関しましては半数程度の方が「満足」「やや満足」ということで、少し数値が低い状況でございました。というのはやはり先ほどもありましたように、観光客の方が騒がしいとかゴミ問題とかそういったところがやはり課題にあるというところが非常に出てきたかなと。そういう意味で観光振興と生活環境、このバランスが非常に大事だということが明らかになったなというふうに思います。また奥多摩らしさが伝わるものが必要なのではないかというようなところもコメントとかで伝えている状況でございます。その上で情報発信とか新規コンテンツ開発などそういった観光振興への関心が高いというところもよく表れたというふうに思います。

観光取組満足度調査もさせていただきまして、こちらは来ていただいた方は青色のところとオレンジ色のところが「満足」というところですけども、9割となっており来ていただいた方は満足されているということがわかっております。やはり新宿から1時間程度でもかかわらず、きれいな自然に触れ合えた時間が長いということで評価されていることが伺えております。

最後のページは9枚目ですけども、沿線DMOの活動で今後の方針を示しております。一番上のところが観光庁への申請状況、自立するためには登録DMOという申請と登録が必要になっております。昨年ですね、登録申請出したんですけども、残念ながら運営体制のところはまだ課題があるというところをご指摘いただきまして、不採択というところが結果でございました。正直自治体の方とも話をしたんですが、最近スキームが変わってかなり申請の内容のハードルが上がったというところで、そもそも申請をする事業者が少なくなるような話も伺っておりますので、DMOとしてはチャレンジをして課題をしっかりと明確にできたというところがございますので、今年度も臆せず再申請をいたしまして、年度内に登録認定というところを目指してまいります。

またその下にも1234と「看板を磨き上げ」というふうに入れておりますけれども、観光庁の補助金等にも連携をしながら、協議会を運営したい、データ収集、プロモーション、来訪者の方のアンケートを継続して意見の数や内容、そういったところを引き続き進めていくというふうに考えております。以上となります。

原島委員長

以上となりますか。よろしくお願いします。4番の沿線まるとの説明が終わったところですけれど、これまでで何か意見がありましたらお願いします。これまでの説明を振り返って、ご質問をいただければと思います。野坂先生の方からありますか。何かご質問とは。

〔野坂委員よりコメント〕

さとゆめ・八間川

はい、じゃあご質問いただきたいと思います。ちょっとコメントとして伺います。

野坂先生からのコメント・ご質問として2点と理解しております。まず1点目が、インバウンド戦略についてです。来訪者数を増やすことで量的な効果はあると思いますが、住民との共生という部分で課題がある中で、インバウンドをどれほど重点に置くのか、という点です。また、ターゲットを絞ることで逆に市場が変わっていくものではないかというご指摘もいただき

ました。なのでターゲットを絞るということについてどのような検討をしているかというご質問がありました。最後にこちら合わせて、教育観点ですとか親子の誘客が奥多摩町としては親和性があるのではないかなというようなコメントもいただきました。海外の親子留学等のご紹介もいただきまして、親子を呼ぶことでマナー的な面でもクリアというか奥多摩町にもネガティブなことが少ない、また関係人口的にリピーターにつながるのではないかなというコメントをいただきました。

もし今のまとめで違いがあればご指摘ください。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。まず全体を包括する部分でのコメント・回答となりますが、インバウンドについてはまずインバウンドを呼ぶ呼ばないはちょっとコメント申し上げると、インバウンドを避けて通れないとはもちろん考えております。そちらは観光産業振興の観点からも検討はすべきテーマというふうに私どもとしては捉えております。ただ一方で野坂先生もおっしゃった通りかつ他の資料でもございましたとおり、町内からインバウンドの方のマナーですとか騒音・またゴミというような声は私どもも承知をしております。

ですのでだからこそと申し上げますか、国ごとに文化が違ってマナーとして違いが出てくるというものはございますので、どのようなインバウンドの中でもどのような属性の方が奥多摩町に親和性が高いのか、かつどういった方をもっと増やしていきたいのか、どういったツアーの時間の過ごし方をされる方が望ましいのかという部分はまさに今年度の検討すべき事項というふうに考えておりました。ですのでインバウンドターゲットについてコメントをいただきたいというふうに記載をしていた通りでございます。

ご批判を恐れず申し上げますと、これまでのヒアリングですとか調査からアジアの方ですと文化の違いが大きくて、欧米の方でアウトドアを楽しむ、自然を楽しむ、割とマナーが整っている文化が合うような方々の方が望ましいという声も確かにあり、一方でこうデータとして台湾ですとかアジアからの流入が多いということもございますので、そういった辺りをどのようにお考えかはぜひ先生方、また今後の町民の方とのワークショップの中でも聞いていきたいなというふうなテーマでございます。

包括する回答となりますが、加えましてターゲットの設定という部分についてはおっしゃる通りで、必ずしももうここに狙い打ちというふうにすると柔軟性がないといえますか、急に状況が変わったときに課題となるものでもありますので、時間軸でのターゲットですとか、重きを置く重み付けとサブターゲットというように、バランスをとってターゲット設定を行いたいと考えております。

その中で教育観点、親子というものはおっしゃる通りだなというふうに考えております。実際にヒアリングの中でも、奥多摩として親子を誘客している・推進しているということは私も承知をしております。まさに自然体験をさせたいという、特に東京の中心地に住んでいる家族連れは多いというふうに理解をしておりますので、そういったところへの訴求は高いというふうに私も考えております。そういった中でターゲットのバランスをとって、そこに対してはここを訴求していこう、そこにはこういうプログラムを提供していこうというものをそれぞれ考えられるのがこの年度できると良いなと考えております。

加えまして最後になりますが、実際にヒアリングの中で、親子が来た夏は毎年来る、けどその後何かにつながっているかというところとわからない、その時だけになっているという声もあり、一方でそれを長期的な時間軸で見るとリピーターかつ戻ってきてくれるとか大学になっても来てくれるというような観点もあると思いますので、そういった時間軸と住民の方の思いですとか受入れ態勢も踏まえたターゲットについてはもうここ1本ではなく、ではインバウンドについてはこういう国でこういう時間の過ごし方をする方々、国内旅行者ではこういった属性の方々というのを年度を通じて整理できれば、という次第です。ありがとうございます。

ぜひ他の先生方ですとか、今後町民の方ともワークショップをやっていく予定ですので、どのような人、それはもちろん海外の方からもですし、国内の方々でも、こういった方々、それはこういったことを奥多摩で過ごされるのか・行動なさるのかということも踏まえて、こういった方々に来てほしいな、こういった過ごし方をしてほしいなのというのが、ぜひ先生方からもございましたらご意見いただければと思っております。いかがでしょうか委員の皆さん。

事務局・大串課長

ちょっと、私から今の点少し補足をさせていただきたいと思います。野坂先生、私の声聞かれていますか。ありがとうございます。

八間川様からご説明いただきましたけれども、今日の1回目を経まして、実は先週4社で打ち合わせをする中で、このターゲットの部分について観光産業課としての考え方で、やはり国内人口がもう減少に転じている中で、やはりインバウンドは国としても推進をしている、やはり取り込むところはやっていかないと観光客の誘客には繋がらないのではないかとというふうに考えております。

少し踏み込んで国名を挙げますけれども、やはり夏場お盆休みの時に、インバウンドというよりも在日で、在日資格の技能実習生であったり、もしくは日本語学校の学生さんが都内から来られて、アジア、特に中国・韓国の方々はなかなかマナーのところといたしますか、もちろん良い方もいらっしゃいますけれども、一部の方によってゴミの問題だったりゴミの放置もあります。そのターゲットというところで純粋なインバウンド、旅行者の方を考えた時に、政治的なところで中国・韓国さんとはやはり外交問題等でそこをターゲットにするとなかなか誘客当たって肩揺れが出てくるのではないかとということもあり、親和性の高いところで台湾という国名がこのシートの中にも記載がなされているところと、あとはやはりサステナブル・アドベンチャーというところの中で欧米の方、長期滞在の方でいらっしゃいますので、その都内のホテルから電車で来れるというアクセスから、そういったところもターゲットにした方がいいのではないかと事務局では考えています。

今後その辺については、ワークショップの中でも広く意見を伺いたいなということと、町内の事業者さんということで観光協会の会議であったり6月に総会もございますので、その場でも何かご意見いただければなという考えているところです。

あと一方で観光客だけではなくて関係人口という中で、教育誘客、もしくは企業の研修もそうですが、今、学生が中で、その財源というところで都内の連携した市町村と23区の区との連携の中で、シンデレラセラピー、奥多摩地域振興財団が窓口になって親子体験という形で年4回ほどバスで東京駅から来ていただいているものであったり、あとは近くで市民のモニタリング形で体験いただいていますので、7月には親子で来ていただいている状況もあります。あとはさとゆめさんの方で企業研修という形で町内展開いただいているのと、あとは野村不動産の方で区民の方向けにモニタリング体験をいただいている状況もありますので、そういったところも町として関係人口ですので、やはり企業研修であったり親子の体験であったり、そういったところも大事にしていきたいなということでございます。私からの補足は以上でございます。

【議題（2） 今後のスケジュールについて（資料－6）】

事務局・大串課長

次に進めさせていただいてよろしいですか。続いて次第の各号 2、今後の進め方・スケジュールということで、資料 6 の表面を八間川さんの方から説明させていただいてよろしいでしょうか。

さとゆめ・八間川

はい承知しました。資料の 6 と右肩に振ってあるもの、ご覧いただいている方からご説明させていただきます。今後の進め方としまして、冒頭私からご説明させていただきましたとおり、住民との協働という観点から、町民の町内の事業者様ですとか住民の方々とのワークショップを 3 回通じて策定をしていきたいというふうに考えております。ですので左側が今回の策定委員会、右側が町内でのワークショップという形で、二本柱で進めたいと考えております。

1 回目、本日の策定委員会が全体像のご共有と協議というふうに位置づけております。まずはその後、右側の 7 月 1 日を予定しております、町内でのワークショップにて町内の資源ですとか課題を踏まえた奥多摩ならではのツーリズム・観光のあり方というものを、町内の方々とディスカッション・ワークショップを行いたいと考えております。ですのでただいま話題になりましたようななどのような方に来てほしいのか、どのような過ごし方をしてもらいたいのかということ、住民の方とお話も含めながら形作っていきたいと考えております。

7 月のこちらのワークショップを踏まえて、8 月に再度こちらの策定委員会を開催させていただければと考えております。8 月の委員会時には 7 月に行った町内の方とのワークショップを踏まえての全体の方針より、本日は全体像で上流の部分でしたので、具体的な計画のコンセプトですとか、それこそターゲット像ですとか、どんなアクションをとっていくかという部分を整理したものをご協議とディスカッション・ご意見いただければと考えております。

そちらを踏まえて 9 月に再度町内でのワークショップを考えております。こちらについては例えば町外ではどのような取組がなされているのか、それこそ先ほどご協議いただきました親子をこのように引き受けているですとか、森林を活用してこんなプログラム・取組が行われているですとか、また獣害を踏まえてジビエツーリズムというようなワードもあったりしますので、こういったものがあるのかというのを、町内の方にも私どもからご協議をしつつ、これは奥多摩でやりたい・適当だねというものを町内の方々とお話ししたいと考えております。

そちらを踏まえて 11 月に再度委員会させていただきたいと考えております。11 月の時にはこういった町内の方々とのお話も踏まえて、年末のパブリックコメントに向けた計画のコンセ

プト案ですとか重点施策・アクションプランの案というものを作っておりますので、11月の委員会時にこちらについてもご協議いただければと考えております。

12月のパブリックコメントを踏まえて、年明けに向け計画の策定を進めていけたらと考えております。

7月から夏から冬にかけて、町内の方々ちょっとどのような方にお声かけするのもこれから検討を進めますが、これからの街づくり、観光立町という意味合いでも、学生の方々ですとか若い方々、観光事業に直接関わっていない方々も含めてご一緒にしながら検討を進めたいというふうに考えております。私からは以上となります。

小峰係長

続いて私からこの裏面をご覧くださいと思います。合わせて資料2のA3のところもご確認いただきたいと思いますが、年4回この策定委員会を予定していますけれども、これに個別具体的にということで、先ほど説明した各係で所管する審議会・協議会等の関連団体等の会議等もございますので、その中でより具体的にご審議・ご意見いただければというふうに考えているところでございます。

観光商工係の関連ですと、観光協会の審議会であったり審議会の協議委員会等、一方で農林水産係については農業推進協議会、内水面農林業の協議会等、森林保全活用係では農林業振興事業協議会の中でご審議いただく、特に関連するところをこの資料2の矢印のところその会議帯のところをお伝えをさせていただいておりますので、こういった形で整理・協議をさせていただくということでご理解いただきたいと存じます。

委員の皆様はそれぞれの協議会の会長・副会長、代表される方でございますので、今年度この策定委員会4回、それに紐づく各関係の協議会の方も回数を増やして年間通じてご審議・ご意見いただきたいと存じますので、各協議会の方については今後各関係長の方から調整させていただいて決めてまいりますけれども、策定委員会の方は事務局としては、次回は8月24日、3回目は11月30日、4回目は2月4日という形で予定をしたいと思っておりますので、全委員の皆様のご予定の方よろしく願いいたします。資料6の説明は以上となります。

〔全体討議・まとめ〕

事務局・大串課長

このスケジュールについてよろしくお願いいたします。その他事務局からは特に追加の説明はございませんので、委員の皆様から全体振り返って何か今日この場で最後ご発言があればと思います。いかがでしょうか。

改めまして、原島委員長、本日の進行ありがとうございました。本日の1回目ということで、かなり情報量多く、これまでの各団体の調査の内容であったり、町で定める第6期計画の観光産業課にかかる部分について資料に基づいて説明させていただいたところでございます。ただ概要という形の説明ですので、後ほどまたお読み取りいただければありがたく存じます。

〔次第10 閉会〕

事務局・大串課長

では次第に戻りまして、閉会ということで最後にこの委員会副委員長でございます原島幹典様に閉会のご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

原島（幹典）副委員長

長時間にわたりご説明・ご議論いただきましてありがとうございました。なかなか内容が大きいものかと思いますが、結果的に実行不能なプランになったり、あるいは実行するとその裏側にあるものを捨てなければいけなかったりということにならないように、そのバランスを取った振興計画をお願いしたいと思います。それではこれにて閉会させていただきます。よろしくお願いいたします。

参加者一同

ありがとうございました。本日はありがとうございました。また次回どうぞよろしくお願いいたします。

〔閉会〕

以上